

文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信 (②セ01-11-1/5)

目 的

文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国における文化財保存・修復事業を推進する。

成 果

1. 国際会議等出席：2011年6月19日から29日まで、パリのユネスコ本部で開催された世界遺産委員会に出席した。また、国内で開催された文化財修復関連の国際シンポジウム等に参加した。
2. データベースの作成：収集した各国文化財保護関連情報についてデータ入力を進め、ウェブサイト上で公開した。また、今年度に国際資料室に受け入れてデータベース化した595点(和漢書287点、洋書308点)の資料、および国際資料室で所蔵する雑誌475種類を掲載した『国際資料室蔵書目録』を発行した。
3. 対訳法令集シリーズの刊行：世界各国の文化財保護に関連した基本的法令の条文を和訳して対訳法令集シリーズとして刊行しており、今年度は3ヶ国を対象とした。まずイタリアの文化財景観法典につき改訂版を入手したので、ウェブサイトにて公開済の和訳を検討・修整の上、出版した。次に、2010年に改正されたエジプト考古遺産保護法を原文より和訳し、同施行規則とともに出版した。さらに、ベトナムの文化遺産法について、原文より和訳し、改正内容を反映した形で同施行令とともに出版した。
4. シンポジウムの開催：2011年12月9日(金)に東京国立博物館平成館において、国際シンポジウム「大仏破壊から10年：世界遺産バーミヤーン遺跡の現状と未来」を奈良文化財研究所との共催にて開催した。このため、Omar Said Sultan (アフガニスタン情報文化省副大臣)、Habiba Sarabi (バーミヤーン州知事)、Michael Petzet (ドイツ・イコモス)、Michael Jansen (ドイツ・アーヘン大学教授)、Georgios Toubekis (ドイツ・アーヘン大学教授)の各氏を招聘した。
13:00-13:20 開会挨拶／13:20-13:40 「アフガニスタンにおける文化遺産保存の現状」(Sultan)／13:40-14:00 「バーミヤーンにおけるユネスコ遺跡保護事業の10年を振り返って」(Lin)／14:00-14:20 「「バーミヤーン遺跡保存事業」とバーミヤーン」(Sarabi)／14:20-14:40 「バーミヤーン大仏-破片の保存と公開に向けて」(Petzet)／14:40-15:00 「マスタープラン：バーミヤーンにおける文化的景観と考古遺跡」(Jansen)／15:00-15:20 「バーミヤーン遺跡の保護にむけた日本の取り組み」(山内)／15:35-17:00 パネルディスカッション(司会：西村幸夫)／17:00-17:10 閉会挨拶
5. 報告書作成：2011年3月3日から5日まで開催した「西アジア文化遺産国際会議」について、アラビア語の和訳および編集作業を行い、日英2ヶ国語版の報告書として出版した。

刊行物：・『各国の文化財保護法令シリーズ[12]イタリア』 東京文化財研究所 12.3・『各国の文化財保護法令シリーズ[13]エジプト』 東京文化財研究所 12.3・『各国の文化財保護法令シリーズ[14]ベトナム』 東京文化財研究所 12.3・『国際資料室蔵書目録』 東京文化財研究所 12.3・『アジア文化遺産国際会議報告書「西アジアの文化遺産—その保護の現状と課題—」』 東京文化財研究所 12.3

研究組織

○川野邊渉、山内和也、友田正彦、加藤雅人、有村誠、影山悦子、安倍雅史、秋枝ユミイザベル、邊牟木尚美、島津美子、鈴木環、佐藤桂、境野飛鳥、今井健一朗、渡部妥子、高多加奈子(以上、文化遺産国際協力センター)、二神葉子(企画情報部)